

事例
4

運輸業、郵便業：道路貨物運送業

太陽運輸株式会社

ドライバーの時間管理を徹底するとともに、高齢者や女性にも働きやすい職場を実現



Point

- ・荷主と交渉しドライバーの時間管理を徹底
- ・高齢者や女性が働きやすい職場環境
- ・免許取得支援や勉強会開催を通じた人材育成

取組の背景

トラック運送業界は、深刻なドライバー不足が問題となっている。その要因は様々であるが、一つに長時間労働をはじめとする厳しい労働環境があげられる。労働時間に手待時間や荷下ろしなどの時間を含めた拘束時間は、一月あたり293時間までと決められている。しかし、時間管理の意識が低い荷主を相手にした場合、拘束時間をオーバーすることも多かった。

同社は創業から44期を迎えるが、以前は業界の流れに沿うように拘束時間が長時間に及んでいたが、この働き方に疑問が生まれた。このような働き方では、従業員が疲弊し、安全面にも問題が出る。さらに、求人募集をかけても従業員が集まらない。

会社がこれからも生き伸びていくためには、従業員を大事にしなければならない。長時間の拘束時間や労働時間を解消するとともに、「仕事と家庭が両立できるような働きやすい会社」への転換が必要と考えた。

具体的な取組内容と効果

●徹底した時間管理を採用

トラック運送会社は、今まではドライバーが走れば走るほど売上が上がっていた。半面、すべての仕事を引き受けてしまうような体制では、ドライバーへの負担は大きくなる。運送業界はこうしたジレンマを抱えていた。そうした状況が続く中、今から3年前にドライバーの負担を軽減し、時間管理を徹底することを決断した。

ドライバーの稼働状況を把握したうえで荷主と交渉し、時間管理がルーズな会社に対しては時間を守ってもらうように粘り強く話し合いを続けた。ムダな手待時間があり、拘束時間が守られないと思われる場合は、ムダな時間の解消をお願いした。

会社が時間管理を徹底することによって、拘束時間の短縮が図られた。すると、ドライバーにも大きな変化が現れた。ドライバー自身が労働時間を意識するようになった。本人の体調は、本人が一番理解している。ドライバーの過労を防ぐためにも、ドライバーが時間を意識できることは大きな意味がある。

●高齢者の体調に留意

同社の在籍ドライバーは、60歳以上と50歳代がそれぞれ3分の1を占めており、全体の3分の2が50歳以上となっている。高齢者が多いことで注意すべき点に健康問題がある。健康問題を疎かにすると安全面に影響が出るため、無理な仕事はさせられない。

そこで、ドライバーが希望する労働時間や配送範囲、有給休暇の取得など、本人の要望をほぼ100%取り入れるようにした。さらに、ドライバーの健康管理のために血圧検査を行い、会社が個々のドライバーの体調の変化を見逃さないように注意を払っている。高齢者は、知らないうちに血圧が上昇し、病気に罹患していることもある。

こうした取り組みを行った結果、高齢者にも働き易いと感じられる職場となっている。

●女性が働きやすい環境づくり

子育てや親の介護など、女性が直面する多様なライフステージに対応するために、短時間勤務制度など柔軟な働き方を取り入れている。同社は、元々日曜・祝日を休日としているが、参観日や運動会など学校行事には有給休暇を気軽に取得できる雰囲気づくりに努めている。女性に優しく長く働ける職場環境の構築に力を入れており、来期は車内禁煙のトラック導入を予定している。このような女性が働きやすい職場づくりを進めることで、会社のイメージアップにもつなげたいと考えている。

ドライバー経験のない女性や若者でも、しっかり働くことができるよう、中型・大型トラックの免許取得支援制度などを備えるほか、交通安全運動や勉強会などドライバー教育にも熱心に取り組んでいる。

今後の展望

●評価制度を活かしてモチベーション向上を図りたい

今年から評価制度を取り入れたが、まだ改善の余地は大きいと感じている。評価制度と賃金制度をどのように結びつければ良いのか、どうすれば労働者の意識改革やモチベーションアップを図れるか、札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業認定を取得するなど、常に最善の改善策を検討し続けている。会社一丸となり、「働きやすい会社とは」をテーマに最善の策に挑戦し続けている。

4 企業プロフィール

- 企業名：太陽運輸株式会社
- 代表者：代表取締役 太田 豊子
- 事業内容：一般貨物自動車運送事業
- 従業員数：44人（令和元年9月）（男性40人、女性4人）
- 住所等：〈本社〉札幌市白石区北郷5条9丁目8番18号
〈大曲車両センター〉北広島市大曲255番3号
- HPアドレス：<http://taiyou-sapporo.jp/>